

諮 問 映 画

映 画 名	ぼくの名前はラワン
制 作 者 等	P u l s e F i l m s
内 容	<p>本作品は、生まれつき耳が聞こえない少年ラワンが、自国を離れ亡命先であるイギリスのろう学校で、手話を学びながら成長していく姿を描いたドキュメンタリー作品である。</p>
推 奨	<p>イギリスから国外退去となるおそれのあったラワンを助けるため、周りの大人や学校、地域社会が政府に抗議する様子、また、それにより国外退去が保留されるという状況が描かれており、青少年の社会に対する良識や倫理観を育てるものである。</p>
理 由	<p>難民やクルド人の生活・亡命、ろう者の人々の生活や手話について学ぶことができ、青少年が知識を身に付け、教養を深める契機となる。</p>
(案)	<p>ラワンは難民クルド人であり、ろう者というハンディキャップを抱えながらも、両親や兄からの愛情や、学校の教師たちのサポートのおかげでアイデンティティを獲得していく様子が描かれており、青少年の人を慈しみ大切にすることを育てるものである。</p> <p>太陽を浴びる、海辺を散歩する、丘に吹く風を感じながら友達と戯れる姿など、地球の美しさを感じる様子が随所に表現され、青少年の美しいものに対する感性を磨き、育てるものである。</p> <p>手話を学んだことでコミュニケーション能力が高まり、友人の前で自らの過去を発表したり、勇気を持ち政府に抗議の声をあげたりするまでに成長する様子、また難民・移民問題についての当事者であるラワンの生き方を通して、青少年の思考力や批判力、観察力を養うことができるものである。</p> <p>家族や学校で孤立しがちだったラワンが、手話を懸命に学び自分の意見を主張するようになり、親友もでき、将来の目標を持つなど一人の人間として成長する様子が描かれており、青少年の健全な心身の成長に資するものである。</p> <p>本作品は、条例施行規則第2条の優良図書類等の推奨の基準 第一号 青少年の社会に対する良識と倫理観を育てるものであること。 第二号 青少年が知識を身につけ、教養を深めていくことに役立つものであること。 第三号 青少年の人を慈しみ、大切にすることを育てるものであること。 第四号 青少年の美しいものに対する感性を磨き、育てるものであること。 第五号 青少年の思考力、批判力又は観察力を養うものであること。 第六号 前各号に掲げるもののほか、青少年の健全な心身の成長に資するものであること。</p> <p>に該当し、青少年（主として小学4年生以上）を健全に育成する上で有益であると認め、小学4年生以上を対象に推奨を行う。</p>